

「笑顔に会うために」

ボストン日本語学校 教頭 河合智樹

文部科学省からの在外教育施設派遣教員である教頭の仕事は、「現地採用教員に対する指導・助言及び研修の実施に関すること」ということでボストン日本語学校において先生方に指導方法を伝える役割があります。また、その他の役割の一つに、マサチューセッツ州管内における派遣教員のいない近隣の在外教育施設の先生方に対し、教科指導方法等に関して、それらの改善のためのお手伝いをするというものがあります。

先日、コネティカット州にあるハートフォード日本語学校へ出張に行ってきました。全校園児児童生徒44名という小規模校ならではの温かい雰囲気が感じられる学校でした。ハートフォード日本語学校からのご要望で「新学習指導要領に基づいた単元の計画（単元開発）」について学びたいということでしたので、小学4年生の国語「アップとルーズで伝える」の単元計画を立て5時間計画の一時間目の授業に行ってきました。

以下は、当日私が皆様にお話ししたことの一部分です。

『ボストン日本語学校の先生方にもお伝えしているのですが、国語で新しい単元に入るときには「単元を貫く言語活動」を設定することが大切です。言語活動とは、「言語による理解、思考、表現によって行われる学習活動」なのでこの単元を通してどのような活動をするのかを決めます。

単元を作るときにはこのような手順を踏みます。

- ①「身に付けさせたい力」（単元目標）を設定する
- ②単元目標にふさわしい言語活動を取り上げる
- ③毎時間の指示や発問によりさらに具体化する



①の単元名を必ず子どもたちと設定することから始めます。その際に、相手意識をもって設定することがとても大切です。それによってどのように学習していくのかが決まります。

②について今回は、子どもたちと話し合いながら「学校紹介リーフレットを作って新一年生の保護者に学校の良さを知ってもらおう。」と設定しました。新一年生の保護者というのが相手意識になり、リーフレットを作るが言語活動になります。

まずリーフレットについて私が作ってきたものを子どもたちに見せて、単元のゴールを意識させます。そして、単元の学習に入っていくのですが、自分たちで立てた単元名が常に黒板に貼ってあるので勉強させられているのではなく、自分たちで学ぶという意識をもてることにつながります。「リーフレットを作るためにはどうしたらよいのだろうか。」という課題意識を持ちながら毎時間学習に主体的に取り組めることにつながります。これが、③の具体化につながります。この単元ですと、リーフレットを書くために、筆者の技を身に付けようということで学習を進めていくこととなります。学習を進めていくごとに筆者の技がどんどん見付き、それを自分のリーフレットに使うことにつながります。…』



お話をさせていただいている間、先生方は熱心にメモを取っていらっしゃいました。子どもたちの学習意欲の向上のために真摯に実践を重ねていこうとされている様子がひしひしと伝わってきました。

ボストン日本語学校でも、教師がお互いの授業を見合っ、意見を交換する授業研修を行っております。

今年度は、「数学的活動の充実について」・「単元を貫く言語活動の実際」・「ひらがなに慣れ親しむ手立て」・「伝統的な言語文化の指導について」・「書く力を身に付けるための主語、述語の理解」について授業を通して研修を行ってきています。時間をかけて授業を子どもたちと創り上げていく熱心な先生方の姿がたくさん見られました。

教師は、子どもたちのわかったという笑顔を見るのが一番うれしいことです。子どもたちの笑顔にたくさん会えるように、今後も家庭と学校とが協力して学習意欲の向上に取り組んでいきたいと思ひます。

